

リフト付バン

取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。

取扱書は車の中に保管しましょう。

適用車種	トヨタ ハイエース
適用型式	TRH / GDH

はじめに

このたびはリフト付バンをお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書はリフト付バンを安全・快適にお使いいただくため、リフト付バン独自の装備に関して正しい取り扱いを説明してあります。

また、リフト付バン装備の点検・手入れについても記載してありますので、ご使用前に必ずお読みください。

- 車両の一般的な取り扱いについては、標準車の「取扱書」（別冊）をご覧ください。
- 販売店で取り付けられた装備の取り扱いについては添付されている取扱書をご覧ください。
- 安全・快適にお使いいただくため「まず読みましょう」は重要ですのでしっかりお読みください。

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」とその回避方法を下記の表示で記載しています。これらは安全のために特に重要ですので、必ず読んで遵守してください。

 警告	記載事項をお守りいただかないと、生命にかかわるような重大な傷害、事故につながるおそれがあること
 注意	記載事項をお守りいただかないと、傷害、事故につながるおそれがあること

お車のために必ず守っていただきたいことや知っておくと便利なこと、してはならない行為を示すイラストは、下記の表示で記載しています。

 アドバイス	お車の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと お車が故障したときにしていただきたいこと
 知識	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと
	してはならない行為

- ・お車をゆずられるときは次のオーナーのために本書をお車につけておいてください。
- ・ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

CONTENTS (目次)

まず読みましょう	2
----------------	---

各部の名称	4
-------------	---

主要諸元	5
------------	---

リフト能力	5
-------------	---

専用装置、装備の使い方	6
-------------------	---

プラットフォーム	6
----------------	---

リヤシートの格納	14
----------------	----

万一のとき	15
-------------	----

スペアタイヤの取り出し	15
-------------------	----

プラットフォームが動かないときは	15
------------------------	----

点検・整備項目	16
---------------	----

定期点検整備	16
--------------	----

消耗部品	17
------------	----

簡単な点検	17
-------------	----

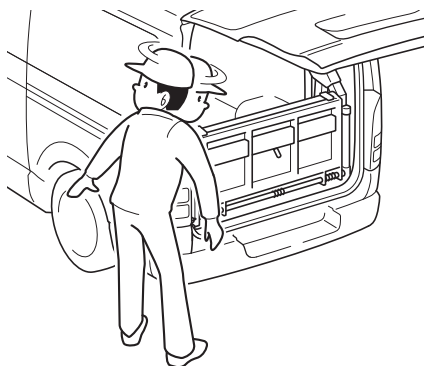
定期点検整備記録簿	21
-----------------	----

まず読みましょう

確認しましたか？

プラットホームを使用するときは、周囲に人やものがないことを確認してください。

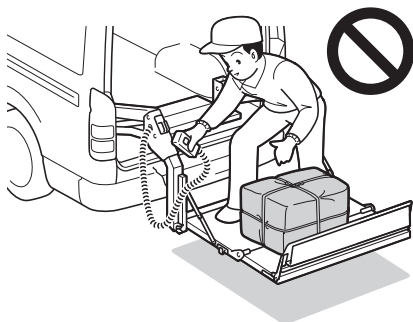
プラットホームが人やものにあたったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



危険です！

プラットホームに乗って昇降操作をしないでください。

足元の注意がおろそかになり、転落やけがをするおそれがあり危険です。



不整地や傾斜地での作業はしないでください。

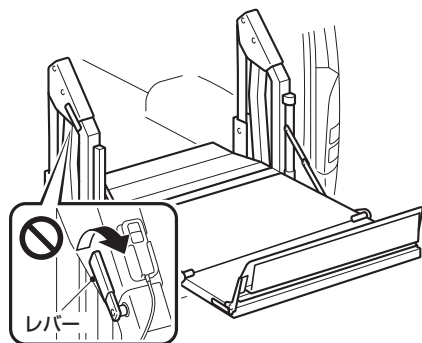
車両が傾いた状態での作業は、リフト装置の故障や寿命の低下につながるばかりでなく、積荷がプラットホームから転落するおそれがあります。



プラットホームが開いているときに横開き操作をしないでください。

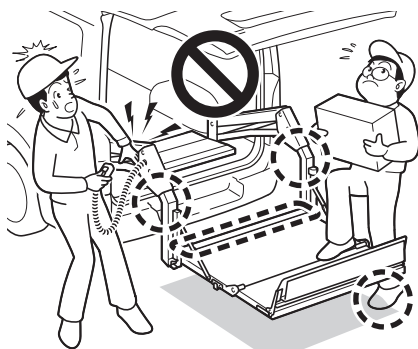
プラットホームが開いた状態で横開きをすると、プラットホームが損傷したり、人にあたるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

横開き操作は、必ずプラットホームが閉まっているときに行ってください。



プラットホームの開閉および昇降操作をするときは、作動部分やプラットホームが接触するボデー部分に手や足をふれないでください。

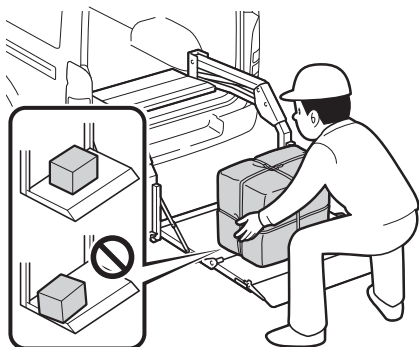
手や足を挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあります。



積荷を載せるときは

積荷はプラットホーム中央に載せてください。

リフト能力は積荷の重さ（荷重）と積荷の搭載位置関係（荷重重心位置）により決まります。積荷をプラットホームの端に載せすぎると、積荷の落下など思わぬ事故につながるおそれがあります。

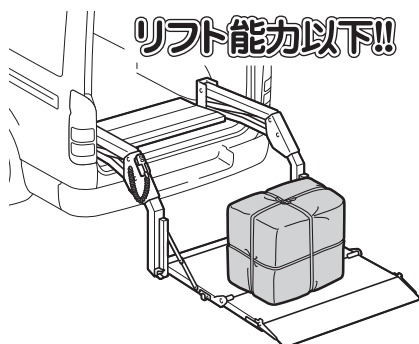


載せすぎていませんか？

プラットホームへの積荷は必ずリフト能力以下にしてください。

リフト能力以上積むとプラットホームは上昇しません。また、リフト装置の故障につながるおそれがあります。

リフト能力 300kg



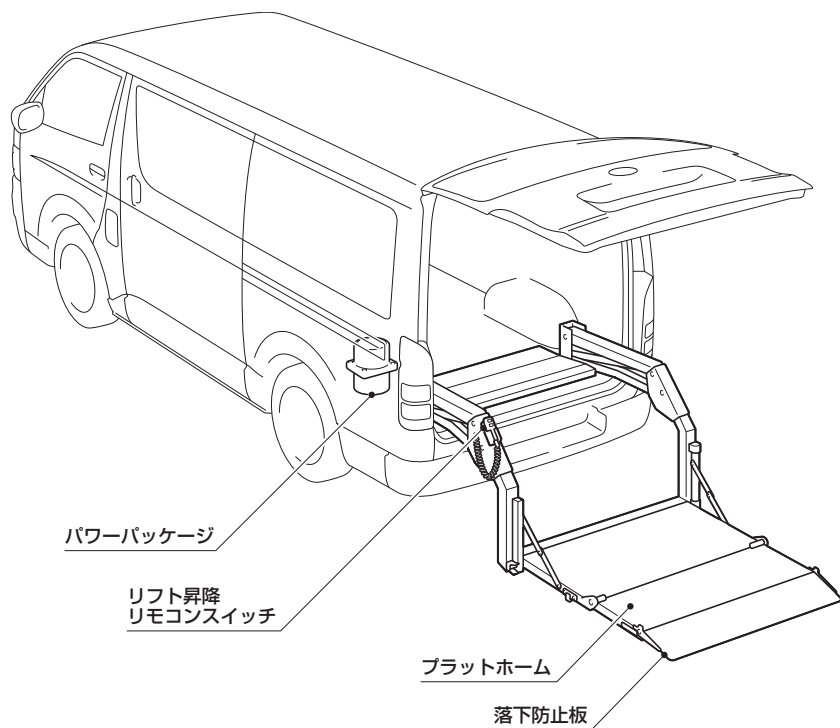
走行するときは

プラットホームを開けたまま車を移動させたり、放置しないでください。

プラットホームが人にあたってけがをさせたり、プラットホームがものに当たって損傷するおそれがあります。



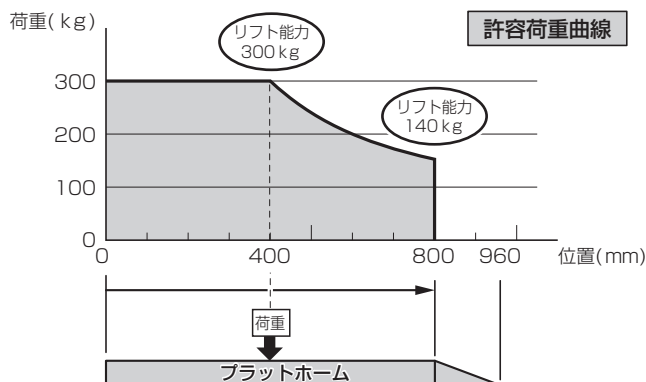
各部の名称



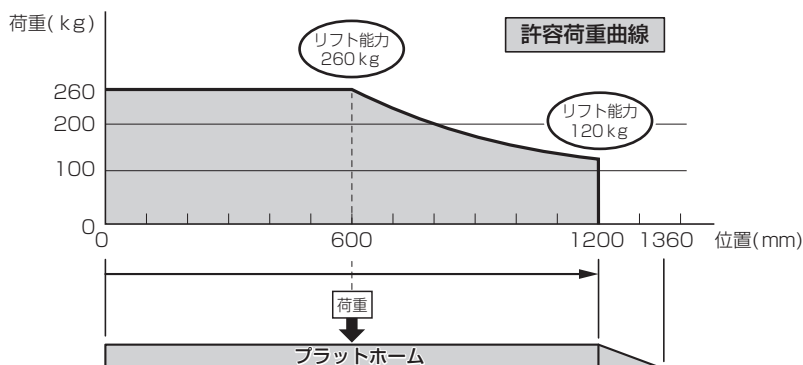
主要諸元

リフト能力

リフト能力は積荷の重さ（荷重）と積荷の搭載位置関係（荷重重心位置）により決まります。プラットフォームに積荷を載せ、昇降させるときは、荷重と荷重重心位置が許容荷重曲線の下側にあることを確認してください。



■ プラットホーム長さ延長 1360mm (1200mm) 時



⚠ 注意

プラットフォーム端部に積載した場合は、許容荷重が低くなる為、過積載となる可能性が高まり、思わぬ事故やリフト装置の故障につながるおそれがあります。

専用装置、装備の使い方

プラットホーム

プラットホームの開閉

⚠ 注意

プラットホームを開閉するときは上部中央部を持つようにしてください。端を持って行くと手を挟み、けがをするおそれがあります。

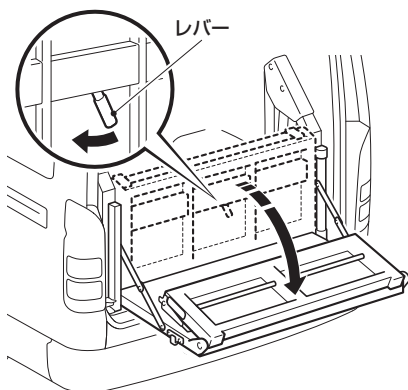


アドバイス

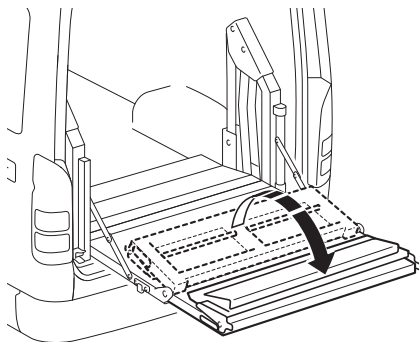
プラットホームを開閉するときは、プラットホームに最後まで手をそえて静かに開閉してください。乱暴な開閉はプラットホームや車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 開け方

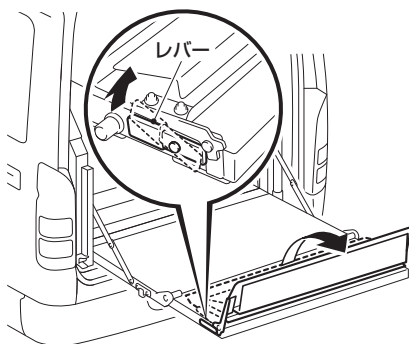
- 1 レバーを左に操作し、プラットホームを手前に倒します。



- 2 プラットホームを開けます。



- 3 レバーを上へ操作してロックを解除し、落下防止板を垂直位置まで起こします。



アドバイス

落下防止板を手前に倒した状態でプラットホームを下降させないでください。積荷が落下したり、落下防止板を手前に倒した状態で接地させると床面（タイルなど）を傷付けるおそれがあります。落下防止板はプラットホームを接地させてから手前に倒してください。

■ 閉め方

開けたときと逆の手順で行います。

- プラットホームを閉めたときは、“カチッ”と音がして確実にロックされていることを確認してください。

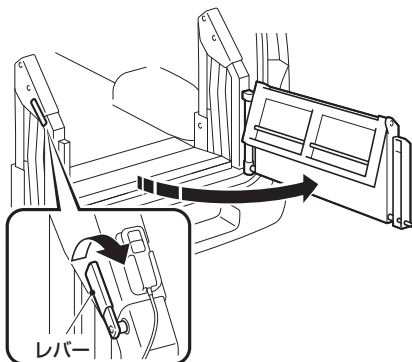


アドバイス

プラットホームを閉めたときは、プラットホームが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、プラットホームがバックドアなどにあたり、損傷するおそれがあります。

■ 横開きのしかた

レバーを手前に引いてロックを解除し、プラットホームを横方向に開けます。



プラットホームを閉めたときは、“カチッ”と音がして確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 注意

横開き操作をするときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 車は平坦な場所に止めてください。
- プラットホームは格納状態にしてください。
- プラットホーム周辺に人がいないこと、ものがないことを確認してください。



知識

プラットホームが確実に閉められていない（横開きになっている）と、リフト昇降リモコンスイッチを押してもプラットホームは作動しません。

プラットフォームの昇降操作

警告

プラットフォームの昇降操作をするときは、手足を挟まないよう、車から少し離れた安全な位置で行い、プラットフォームの作動部分や、プラットフォームが接触するボデー部分に手や足をふれないください。

注意

操作前にプラットフォーム接地面および周辺に障害物がなく、人の立ち入りがないことを確認してください。

知識

プラットフォームが横開きになっているときは、リフト昇降リモコンスイッチを押してもプラットフォームは作動しません。

■昇降のしかた

- 1 車を水平な場所に止め、必ずパーキングブレーキをかけ、タイヤに輪止めをします。

●エンジンはかけたままにしておきます。

注意

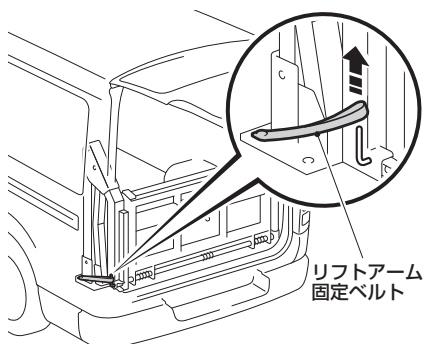
不整地や傾斜地での作業は行わないでください。車両が傾いた状態で作業を行うと積荷が転落するおそれがあります。



アドバイス

プラットフォームを操作するときは、必ずエンジンをかけてください。エンジンをかけないとバッテリーあがりの原因になります。

- 2 リフトアーム固定ベルトをはずします。



- 3 プラットホームを開けます。(6 ページ参照)



アドバイス

プラットホームを閉めたままリフト昇降リモコンスイッチの「下」を押さないでください。プラットホームや車両を破損するおそれがあります。



アドバイス

プラットホーム操作前に必ずリフトアーム固定ベルトをはずしてください。ベルトをはずさずに操作すると、ベルトおよびプラットホームが損傷するおそれがあります。



知識

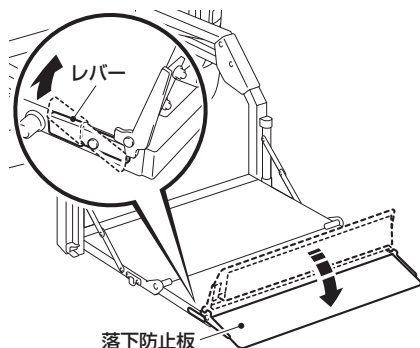
リフトアーム固定ベルトがはずしにくいときはリフト昇降リモコンスイッチの「上」を押し、プラットホームをいっぱいまで上昇させてからはずしてください。

4 プラットホームを操作します。

- リフト昇降リモコンスイッチの「下」を押しているあいだプラットホームは下降し、「上」を押しているあいだプラットホームは上昇します。
- スイッチから指を離すと、プラットホームはその位置で停止します。
- プラットホームがいっぱいまで下降および上昇したらスイッチから指を離してください。



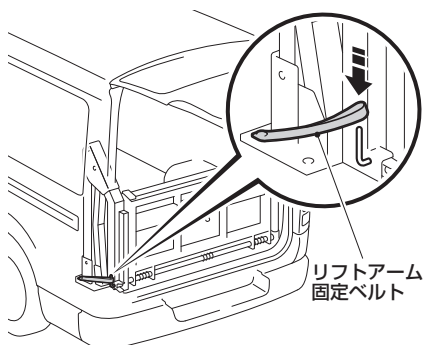
5 プラットホームをいっぱいまで下降（接地）させたときは、レバーを引いてロックを解除し、落下防止板を手前に倒します。



アドバイス

プラットホームを昇降するときは、必ず落下防止板を垂直位置まで起こしてください。落下防止板を手前に倒した状態でプラットホームを昇降すると積荷が落下したり、落下防止板を手前に倒した状態で接地させると床面（タイルなど）を傷付けるおそれがあります。

- 6 操作後、プラットホームを格納したときは、リフトアーム固定ベルトをかけます。



リフトアーム
固定ベルト

⚠ 注意

- プラットホームに乗って昇降操作をしないでください。足元の注意がおろそかになり、プラットホームから転落してけがをするおそれがあります。
- プラットホームを開けたまま車を移動させたり、放置しないでください。操作後は必ずプラットホームを閉め、リフトアーム固定ベルトをかけ、確実に固定してください。固定ベルトがはずれていると、走行中にリフトアームがバックドア内板にあたり、傷付くおそれがあります。



アドバイス

プラットホームをいっぱいまで上昇・下降させたら、リフト昇降リモコンスイッチから指を離してください。20 秒以上押し続けるとモータが故障するおそれがあります。

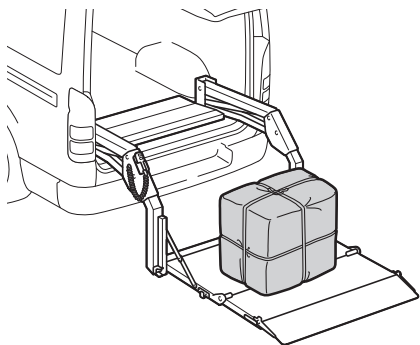


知識

- リフト昇降リモコンスイッチの「下」を押してもプラットホームが下降しないときは、リフト昇降リモコンスイッチの「上」を押し、プラットホームをいっぱいまで上昇させてからリフト昇降リモコンスイッチの「下」を押してください。
- 前方傾斜地および寒いとき（－10℃以下）には油圧装置内のオイルの粘度が高いため、リフト昇降リモコンスイッチの「下」を押してもプラットホームが動きにくい場合があります。そのときはリフト昇降リモコンスイッチの「下」を押しながら落下防止板に手をかけ、軽く引けば下降します。

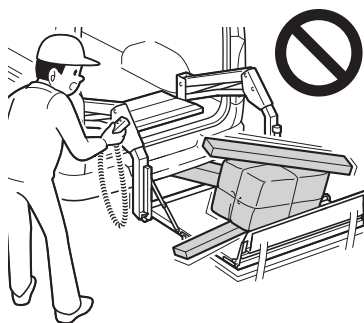
積荷を載せるときは

積荷は必ずリフト能力（300kg）以下とし、プラットホームの中央部（中心より少し前）に載せます。（P.5 許容荷重曲線参照）



⚠ 注意

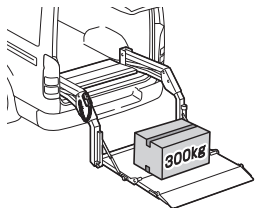
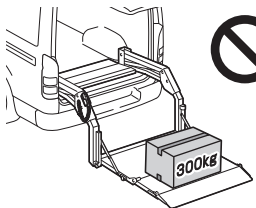
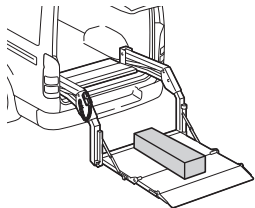
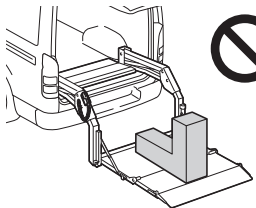
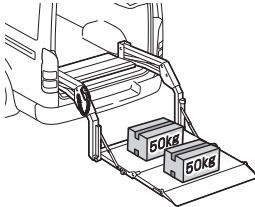
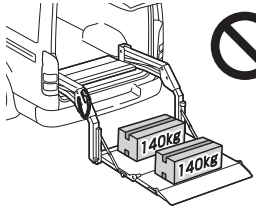
- プラットホームが水平になっていることを確認してください。
- 積荷がすべり落ちないことを確認してください。プラットホームは積荷により傾くことがあります。
- 積荷はプラットホームの中央より少し前寄りに載せてください。リフト能力は積荷の重さ（荷重）と積荷の搭載位置関係（荷重重心位置）により決まります。積荷をプラットホームの端に載せすぎると、積荷が車両に巻き込まれたり、積荷の落下など思わぬ事故につながるおそれがあります。





アドバイス

プラットフォームへの積荷は、必ずリフト能力以下としてください。リフト能力以上積むとプラットフォームは上昇しません。また、リフト装置や車両の破損につながるおそれがあります。

	良い例	悪い例	補足
搭載位置	プラットフォーム中心より 少し前側 荷重：300kg（260kg）まで 	プラットフォーム中心より 外側 	プラットフォーム 中心より外側に 積荷を載せると リフト能力が不 足します
長尺物	プラットフォーム中央 荷重：300kg（260kg）まで 	荷重重心位置外側 	荷重重心位置が プラットフォーム 外側に来るよう に積荷を載せな いください
複数搭載	末端搭載 荷重：140kg（120kg）まで 	末端搭載 荷重：140kg（120kg）まで 	リフト能力を超 える複数搭載は しないでくださ い （P.5 の許容荷 重曲線のリフト 能力をご確認く ださい）

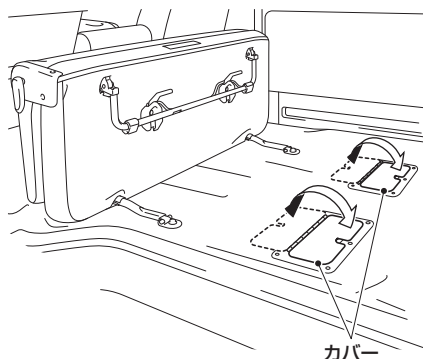
（ ）内はプラットフォーム長さ 1360mm の場合

リヤシートの格納

3/6 人乗り車

リヤシート脚部の床面ロック部分に、カバーが設けてあります。

- リヤシートを格納したときは、カバーを閉めます。
- リヤシートをもどす前に、カバーを開けます。



リヤシートの格納・もどす操作は標準車と同様です。標準車取扱書の『リヤシート』を併せて参照してください。

⚠ 警告

リヤシートをもどす前に、必ずカバーを開けてください。カバーを閉めたままだとリヤシートがロックされず、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートが動き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

リヤシートを格納したときは、必ずカバーを閉めてください。カバーを開けたままだと、荷室内に乗り込んだとき、つまずいてけがをしたり、荷物を損傷するおそれがあります。



アドバイス

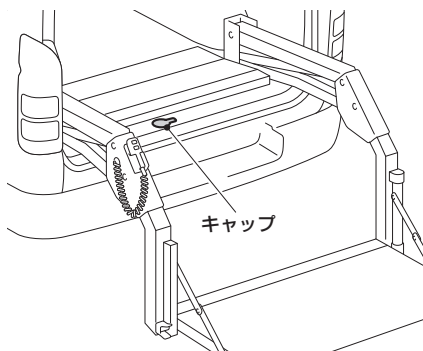
リヤシートをもどす前に、必ずカバーを開けてください。カバーを閉めたままリヤシートをおろすと、シート脚部がカバーにあたり、シート脚部とカバーを損傷するおそれがあります。

万ーのとき

スペアタイヤの取り出し

■ スペアタイヤを取り出すときは

プラットフォームを完全に下降させた状態でキャップをはずします。



以降の手順は標準車と同様ですので、標準車の取扱書を参照してください。



知識

上記の状態にしないと、ホイールナットレンチがリフト装置などにあたり、スペアタイヤを取り出すことができません。

プラットフォームが動かないときは

プラットフォームを連続して昇降させたときは

プラットフォームは連続して昇降させないでください。安全装置が働きロック解除しなくなり、プラットフォームが下降しなくなることがあります。

プラットフォームが下降しなくなったときは、以下の要領で操作してください。

- 1 15 秒以上待機します。
- 2 リフト昇降リモコンスイッチの「上」を押し、プラットフォームをいっぱいまで上昇させます。



アドバイス

リフト昇降リモコンスイッチを 20 秒以上押し続けしないでください。モータの焼損につながるおそれがあります。

- 3 リフト昇降リモコンスイッチの「下」を押し、プラットフォームを下降させます。

点検・整備項目

定期点検整備

故障を減らして長く大切に使うために定期点検整備をお願いします。
点検結果を記録する際には、21 ページの記録簿を A4 サイズにコピーして使用してください。

点 検 整 備 項 目		点 検 時 期			交 換 時 期 (年)	備 考
		日 常 点 検	自家用車			
			12 か 月 ご と	24 か 月 ご と		
油 圧 装 置 部 分	油圧作動油 ・ 油の汚れ ・ 油の交換		○	○	2	新車時は3か月後
	配管部の異常	○	○	○		ユニオンナットのゆるみ、耐水ホースのふくれ・すり切れ・破れ、クランプのはずれ・たれ下がり、フロア下面の油圧ホースの損傷がないこと
	パワーパッケージ ・ 取り付け部の締め付け ・ 作動状態	○	○ ○	○ ○		作動油漏れ、異音がないこと
	シリンダ ・ 取り付け部 ・ 作動状態 ・ 作動油もれ	○	○ ○	○ ○ ○		ガタ、変形がないこと 引っかかり、異音がないこと
パ ワ ー リ フ ト 部 分	ブラットホーム ・ 傾き、変形 ・ 開閉および昇降作動状態 ・ グリース塗布	○	○ ○ ○	○ ○ ○		しゅう動部
	レバー ・ レバーの解除ストローク ・ ロック状態		○ ○	○ ○		遊び代 ガタ、変形がないこと
	各部取り付け部		○	○		ゆるみ、ガタ、損傷がないこと
	アームガイドステローラー		○	○		ガタ、損傷がないこと

消耗部品

下記部品は使用頻度・経年変化などにより、消耗・劣化する部品です。
点検時に摩耗や損傷状態を見て早めに交換してください。

●交換作業は販売店にお申し付けください。

各種油圧シールゴム部品、ヒューズ類、油脂類、リフトアーム固定ベルト

簡単な点検

ヒューズの点検・交換

リフト昇降リモコンスイッチを押してもプラットホームが作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。

ヒューズが切れたときは、必ず規定容量のヒューズと交換してください。

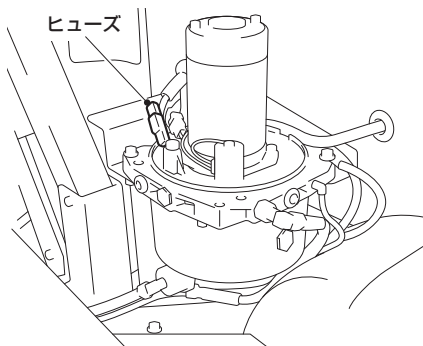
●ヒューズの点検・交換は販売店にお申し付けください。

⚠ 警告

規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災になるおそれがあり危険です。

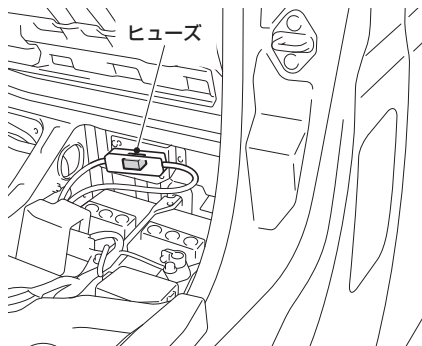
■ パワーパッケージ内部

ヒューズ容量 10A



■ バッテリー⊕端子部

ヒューズ容量 60A

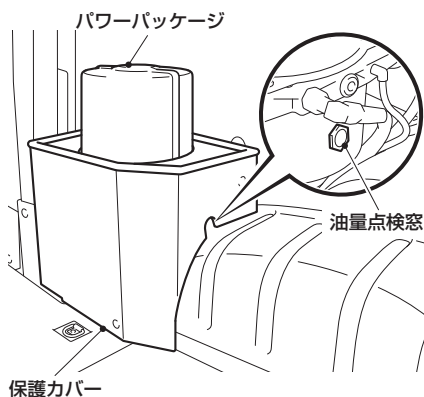


作動油量の点検

■点検のしかた

プラットホームをフロア面まで上昇させた状態で点検します。

- パワーパッケージの油量点検窓のほぼ中央部まで作動油があれば適量です。



アドバイス

作動油量の点検・補給はプラットホームをフロア面まで上昇させてから行ってください。正しい油量が確保されていないと作動に支障が起きるおそれがあります。

■補給のしかた

作動油の補給は販売店にお申しつけください。

- 1 パワーパッケージの保護カバーをはずします。
- 2 作動油不足の場合は、給油口ボルトをはずし、作動油を補給します。

使用作動油	作動油規定量※
オートフルードWS	2.0L

※：規定量は参考値です。



アドバイス

指定の作動油以外は絶対に使用しないでください。油圧装置の故障につながるおそれがあります。

- 3 作動油補給後、3～5回プラットホームを動かします。
- ポンプおよび回路内のエア抜きを自動的に行います。

MEMO

MEMO

リフト付バン

適用車種	トヨタ ハイエース
適用型式	TRH / GDH



車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。

〈本書の内容のお問い合わせは下記へお願いいたします〉

特装福祉事業部

TEL (0566) 36-2497 FAX (0566) 36-2498